

こどもミュージカルしんらんさま

京都（吉水）編



京都(吉水)編

(ナレーション)

親鸞さまは法然聖人のお弟子になられとき、新たに「綽空(しゃくくう)」という名前をもらわれ、「善信坊綽空」と名のっておられました。

【場面Ⅰ】BGM♪「吉水の禅房」

ほうりきぼうれんせい しんがんぼうげんれん ぜんしんぼうしゃくくう じょうもんぼう じゅうれんぼう あんらくぼう
法力房蓮生・信願房源蓮・善信房綽空・浄聞房・住蓮房・安樂房

- ・信願房：お久しぶりです。次郎さま。
- ・法力房：おおっ、与一ではないか。
- ・信願房：次郎さま、お元気そうで何よりです。
- ・浄聞房：あっ、お二人は共に平家と戦われたのでしたね。
- ・信願房：はい、そうです。
- ・法力房：与一よ、私は法然さまから新たな名前をいただき、今は蓮生という。
- ・信願房：そうでしたか。私も源蓮という名前をいただきました。
- ・法力房：そうか。共に「蓮^{はす}」の文字が入っているな。
- ・善信房：お経に、お浄土の蓮はそれぞれの色のままに光り輝いていると説かれています。
- ・信願房：蓮生さまは蓮生さまのままだに、私は私のままだに、「いのちを輝かせて生きよ」と、名付けてくださったのでしょうか。
- ・法力房：きっと、そういうことに違いない。
- ・安樂房：ありがたいことですね。
- ・法力房：ところで、与一は手柄を立てて那須の家を継いだのではなかったか。
- ・信願房：はい。けれども、そのために戦^{いくさ}で人を殺めたり、後に醜い争いも起こったりしました。
- ・法力房：私も一ノ谷の戦いで、我が子と同じ年の平敦盛^{たいらのあつもり}さまを手にかけてしまった。
- ・住蓮房：戦とは、むごいものですね。
- ・信願房：あの時は、手柄をあげてほうびをもらうことが一番だと考えていました。
- ・法力房：だが、それは誰かのいのちを奪うことでもあった。
- ・信願房：そのため、ほうびをもらっても心から喜ぶことはできませんでした。
- ・法力房：だから、私もすべてを捨てて法然さまの弟子にいただいたのだ。
- ・浄聞房：それぞれ、深い悩みを抱えてここに来られたのですね、
- ・安樂房：そういえば、敦盛さまの奥方とそのお子も、法然さまの教えを聞きに来ておられます。
- ・法力房：私への憎しみも、お念仏の教えを聞くことによって和らいできたように見えます。
- ・善信房：敵と味方であった者が、お念仏の教えによって同じ喜びの中に生きているのですね。
- ・信願房：では、この吉水の禅房は、まるでお浄土のようですね。
- ・住蓮房：ここに集まる人々は、誰もが阿弥陀さまの光に包まれていることでしょう。
- ・法力房：本当に、ありがたいことだ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。
- ・善信房・信願房・浄聞房・安樂房・住蓮房：南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

《挿入歌① 慈光に包まれて》 法力房・善信房・信願房・浄聞房・安樂房・住蓮房

悲しみ 憎しみ 怨^{うら}みの ころも
犯した 罪への 畏^{おそ}れも 今では
すべてを 浄土^{みくに}の 慈光^{ひかり}が 包んで
生きる 喜びに 変えてしまった

【場面 2】 BGM♪「耳四郎の帰依」

《 登場人物 ： 法然聖人^{ほうりきぼうれんせい}・法力房蓮生^{しんがんぼうげんれん}・信願房源蓮^{ぜんしんぼうしやくう}・善信房綽空^{じょうもんぼう}・浄聞房^{じゅうれんぼう}・住蓮房^{あんらくぼう}・安樂房

参詣者①・参詣者②・参詣者③^{みみしろう}・耳四郎・筑前・まつ》
(ナレーション)

法然聖人が^{あねやこうじ}姉小路^{しらかわごてん}の白河御殿でお念仏の教を説かれた時のことです。

その日もたくさんの人たちが集まり、法然聖人のお話を熱心に聞いていました。

- ・住蓮房：みなさま、今日はようこそお参りくださいました。
- ・安樂房：何か法然さまにお聞きになりたいことのある方、おられますか。
- ・参詣者①：法然さま、私たちは毎日魚を獲って暮らしています。
- ・参詣者②：それで…、もうどれだけ命を奪う罪を犯してきたか分かりせん。
- ・法然聖人：確かに、他のいのちを奪うことは大きな罪だといえます。
- ・参詣者③：だから、その罪で地獄に堕ちるのだと諦めています。
- ・参詣者①：やはりこんな悪人が救われることはないのでしょうか。
- ・法然聖人：けれども、生きるということは、他のいのちを奪い続けるということです。
- ・参詣者②：はい。生きるために仕方なく魚を獲っています。
- ・法然聖人：だが、その「悪人こそ必ず救う」というのが、阿弥陀さまのみ教えです。
- ・参詣者③：ええっ、阿弥陀さまはこんな私でも救ってくださるのですか。
- ・法然聖人：もちろんです。
- ・参詣者①②③：おお…。(頷き互いに顔を見合わせて喜び合う)
- ・法然聖人：誰もが、お念仏一つで救われていくのです。
- ・耳四郎：法然さま、どんな悪人でも救われるというのは本当ですか。
- ・法然聖人：はい。その通りです。
- ・耳四郎：それなら、この私のような者でも救われるのでしょうか。
- ・法然聖人：あなたは…、悪人なのですか。
- ・耳四郎：はい。盗みや乱暴を働く大悪党の耳四郎とは私のことです。
- ・住蓮房：えっ！ その名を聞けば泣く子も黙るという、あの耳四郎とはあなたですか。
- ・耳四郎：そんな私なのですが、地獄に行かなくても良いのでしょうか。

- ・法然聖人：はい。地獄になど行くはずがありません。
 - ・耳四郎：それは、どうしてですか。
 - ・法然聖人：耳四郎殿、この法然が救われるのです。あなたが救われないはずはありません。
 - ・耳四郎：法然さまと違い、私は大悪党ですよ！
 - ・法然聖人：その悪人こそ真っ先に救いたいというのが阿弥陀さまのお心なのです。
 - ・耳四郎：阿弥陀さまが、この私のことを救いたいと…。
 - ・法然聖人：耳四郎殿。あなたは、自分が悪人であることを誰よりもよく知っておられます。
 - ・耳四郎：はい。だから地獄にしか行く他ないとあきらめているのです。
 - ・法然聖人：私も自分の愚かさを誰よりもよく知っています。
 - ・まつ：えっ。法然さまは智慧第一、何でも知っておられるのでは…。
 - ・法然聖人：いいえ。私は自分が何も知らないことを知っているだけです。
 - ・筑前：何でも知っておられるではありませんか。
 - ・法然聖人：知っているのは、愚かな私はお念仏によってしか救われないということだけです。
 - ・耳四郎：では、こんな大悪党の耳四郎でも、お念仏によって救われていくのですね。
 - ・法然聖人：間違いありません。
 - ・耳四郎：おおっ…。(手で顔を覆いながら) 何とありがたいことだ！
 - ・全員／南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。
 - ・安楽房：では、これをもちまして、法然さまのお話は終わりにさせていただきます。
- 《挿入歌②大悲無倦》 全員
- 迷いにさえぎられ くもったこの目には
みほとけ
 御仏を見ることは かなわないけれど
 大悲の光は 飽きることもなく
 いつでも私を照らしてくださる
- ・善信房：みなさま、今日もようこそお参りくださいました。
 - ・信願房：それでは、みなさま、どうか気をつけてお帰りください。
- ➡それぞれお念仏を称えながら帰って行く。

【場面3】 BGM♪「女官の出家」

《 登場人物 ： 住蓮房・安楽房・鈴虫（女官）・松虫（女官） 》

（ナレーション）

後鳥羽上皇が、熊野にお参りに行かれた時のことです。

ひがしやましし が 東山ほっしょうじ鹿ヶ谷の法勝寺で、法然聖人のお弟子の住蓮房と安楽房が教え説いていました。

そして、それを聞くために、たくさんの人々が集まり、みんな喜んで帰っていきました。

ところが、宮中からお話を聞きにきた二人の女官は、なかなか帰ろうとしませんでした。

- ・安楽房：お二人は、まだ帰られないのですか。
- ・鈴虫・松虫：はい。
- ・住蓮房：何かお話ししたいことでもあるのですか。
- ・松虫・松虫：そうです。
- ・安楽房：その前に…、お二人はどのような方ですか。
- ・鈴虫：私たちは、上皇さまにお仕えしている者です。
- ・住蓮房：宮中にお仕えの方でしたか。
- ・安楽房：それでは、急いで帰らなければならないではありませんか。
- ・松虫：いま上皇さまは、熊野にお参りに行っておられます。
- ・安楽房：そうでしたか。それでお話とは…。
- ・鈴虫：私たちが仏門に入れてください。
- ・住蓮房：えっ。
- ・松虫：どうか尼にしてほしいのです。
- ・安楽房：それは、どうしてですか。
- ・鈴虫：もう宮中での暮らしに疲れきってしまいました。
- ・松虫：いつも心の休まるときがないのです。
- ・安楽房：それは、本当にお辛いことですね。
- ・住蓮房：けれども、今のままでも救われていくのがお念仏の教えです。
- ・鈴虫：でも、もう宮中には帰りたくないのです。
- ・安楽房：このまま帰らないと、上皇さまのお叱りを受けませんか。
- ・松虫：私たちは、これからみ仏さまにお仕えしたいのです。
- ・安楽房：そのお気持ちは変わりませんか。
- ・鈴虫：はい。
- ・松虫：私も。
- ・住蓮房：分かりました。
- ・安楽房：それでは、お二人を尼にしてさしあげましょう。
- ・鈴虫：ありがとうございます。
- ・松虫：これで心安らかに暮らせます。
- ・鈴虫・松虫：南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

《挿入歌③》 鈴虫・松虫

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

お名前よべば いつでもここに

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

嬉しい時も 寂しい時も

(ナレーション)

この二人の女官は、後鳥羽上皇さまのお気に入りでした。そのため、熊野から帰って二人が尼になってことを知ると、上皇さまは大変お怒りになりました。

【場面 4】 BGM♪「法然聖人との別れ」

《登場人物：法然聖人・信願房源蓮・善信房綽空・浄聞房・筑前・まつ》

(ナレーション)

法然聖人の説かれた「誰もがわけへだてなく、ただ念仏して阿弥陀仏に救われていく」というお念仏の教えは、多くの人々に次々と受け入れられていきました。

しかし、その教えがこれまでの仏教の価値観を壊し社会のあり方を乱すものだとは非難する人たちもいました。それに対して、法然聖人も丁寧に説明されたのですが、対立の溝は深まるばかりでした。そのような中、法然聖人のお弟子が関わったとされる事件が起こり、上皇さまの怒りをかうことになりました。そして、その怒りの矛先は法然聖人をはじめとするお弟子に向けられ、4人が死罪、8人が流罪になりました。

・信願房：お師匠さま、なぜこのようなことになったのでしょうか。(泣)

・浄聞房：私たちは、ただお念仏の教えを喜んでいただけなのに…。(泣)

・善信房：しかも、お師匠さままで土佐の国に流されるとは…。(泣)

・まつ：本当にひどいことです。(泣)

・法然聖人：みなさん、もう泣くのはやめなさい。

これは「まだお念仏の教えに出会っていない人々にも広く伝えよ」という、仏さまのおんはからい
といただくことにしよう。

・善信房：けれども、私たちはともかく、お師匠さままで流罪とは…。

・法然聖人：二人は、越後でしたね。

・善信房・信願房：はい。

・法然聖人：では、共に越後の人々にお念仏の教えをお伝えしなさい。

・善信房：はい、お師匠さま。

・信願房：必ずそのように努めます。

・法然聖人：私たちは、離ればなれになってもお念仏の教えで結ばれています。

・全員：はい、お師匠さま。

・法然聖人：もし、このまま会えなくなっても、いつか必ずお浄土で会える日がきます。

・信願房：ですが…、少しでも早くお赦しが出て、またここで会いたいです。

・筑前：私もそうです。

・浄聞：お師匠さま、またみ教えをお聞かせください。

・法然聖人：先のことはわからないが…、みんなも元気でお過ごしなさい。

・信願房：私たちは、罪なくして僧の身分を奪われました。

・善信房：しかし、だれも私たちからお念仏の教えを奪うことはできません。

・法然聖人：新たに出会う人々と、共にお念仏の教えを喜んでいくことにしましょう。

・善信房・信願房・浄聞房：そうしよう！

🎵 挿入歌「離れていても」(全員で歌う)

どんな遠くに 離れていても
君の名前 口にすれば 心に浮かぶよ
だから一人で いる時だって
さみしくない つらくないよ 僕らはいつでも
固い絆で 結ばれてるから
どんなことがあったとしても くじけたりはしない
人は誰でも 生きた分だけ
出会い・別れ 何度もまた繰り返すけど
みんなの笑顔は 忘れない

うれしいことや かなしいことが
あるとすぐに 君のことを 思い出してる
出会えてともに 過ごした日々は
まぶしいまま色褪せずに 輝いてるよ
広い世界を 知るためそれぞれ
違う道に 進んだけれど 心は離れない
いつか会えるよ きっと会おうね
信じあえる世界めざし 歩き続ける
みんなの笑顔は 宝物